

金ケ崎町の火災状況のお知らせ

当町の火災現況について

当町の令和6年中の火災発生件数は10件、出火率は6.59%となり、令和5年の県内及び全国平均の出火率より、非常に高い数値となりました。全国的に出火原因として多いのが、「たばこ」、「たき火（草等を集積し屋外で焼却すること）」ですが、当町の出火原因として多いのも「たき火」となっています。また、「たき火」に分類されないものでも、**春秋の乾燥時期、風が強い日に、屋外を火元に火災に至るケースが多く発生しています。**
 _令和7年2月に町内で発生した火災では、非常に風が強い日で、原因者が、たき火をした後に複数回鎮火状況を確認したにもかかわらず、再燃し、火災となるケースが発生しました。

【出火率（人口1万人あたりの出火件数）】

金ケ崎町		岩手県	全国
R6	R5	R5	R5
6.59%	6.56%	3.22%	3.08%



※県内平均、全国平均は、総務省消防庁消防統計（火災統計）の数値を参照

【令和6年中の当町出火原因内訳】

たき火	火入れ	こんろ	ストーブ	電灯電話等の配線	排気管	火あそび	その他	不明	計
2件	1件	1件	1件	1件	1件	1件	1件	1件	10件

※総務省消防庁消防統計（火災統計）の出火原因分類に準じ、たき火は「草等を集積後、屋外で焼却すること」、火入れは「土手などに直接点火し、焼却すること」として分類しています。

たき火・火入れをする前に考えてみましょう！

火災は、自身だけではなく他の人の生活を脅かす可能性があります。たき火・火入れを行うかどうかの判断は、慎重に行いましょう。また、**火入れ・たき火を行う場合は、必ず金ケ崎分署へ届出連絡をしましょう。**

【金ケ崎分署への届出連絡方法】

- 方法① 電話で（☎ 44-2442）連絡する。
- 方法② 指定の届出書（火災とまぎらわしい煙又は火災を発生するおそれのある行為の届出書）をFAX（44-3688）又は持参（西根北宿内78番地1）する。



◀届出書のダウンロードはこちらから…

■ 始める前に確認・準備すること

- ▶ 乾燥注意報等が出ているときや風の強い日は控える。
- ▶ 周囲に燃えやすいものがないか。
- ▶ 水バケツ、消火器等が準備されているか。
- ▶ 燃えやすいものは、小さく集積されているか。

■ 行っているときに注意すること

- ▶ 火を消すまでその場を絶対に離れないこと。
- ▶ 風が強くなってきた場合は、中止すること。
- ▶ 燃え広がった場合は、直ちに119番通報し安全な場所に避難すること。

7年連続で農大生が全国大会の「学生懸賞作文」で上位入賞

「第35回ヤンマー学生懸賞論文・作文」作文の部で、県立農大の石川樹さん（当時花き経営科2年）が銀賞を受賞しました。実家のユリ農家を継ぎ、2代目生産者としての未来を書いた石川さんは「品質の良いユリを作り、経営を成り立たせることを大事にしたい。そして、多くの人にユリの素晴らしさを伝えること、ユリを通して多くの人に潤いを与えること。そのようなユリ生産者になることが目標です」と今後の抱負を語りました。



笑顔を見せる石川さん（農業大学校提供）

学び舎を巣立ち さらに輝く自分を目指して

県立金ケ崎高等学校の卒業式が3月1日、同校で行われました。三森健校長から卒業生43人に卒業証書が手渡され、卒業生は支えてくれた仲間や教諭、保護者らに感謝し、学びやを巣立ちました。卒業生を代表して佐々木華さんが「この学び舎で受けたものすべてが自分たちの成長に繋がったと思う。これからの未来に向けてより頑張っていきたい」と答辞を述べました。



三森校長から卒業証書を受け取る卒業生

地域おこし協力隊活動報告会 協力隊の活動をお伝えします

地域おこし協力隊活動報告会及び中高生の育ちに関する勉強会が3月16日に中央生涯教育センターで開催されました。第1部の活動報告会では、県立金ケ崎高等学校と県立北上翔南高等学校の生徒が地域での活動を発表。その後、地域おこし協力隊の有住龍星さんが協力隊に着任してからの活動成果や今後のビジョンを発表しました。第2部では講師による勉強会が行われ、参加者は『まちで人を育て、一緒にまちづくりを行うこと』への理解を深めました。



これまでの活動内容報告や今後も多くの人との繋がりを大切にして取り組みたいと話す有住隊員

これまでの温かいやさしさを形に 金ケ崎町さくらの会 10周年記念誌発刊

東日本大震災被災者交流サロン「金ケ崎町さくらの会」は発足10周年を記念して、3月に記念誌を発刊しました。3月25日に金ケ崎町社会福祉協議会で記念誌が披露され、さくらの会副会長の村上りつ子さんから高橋範夫金ケ崎町社会福祉協議会会長へ手渡されました。村上副会長は「震災から年数がたちましたが、金ケ崎の人達の温かい気持ちに励まされ、身も心も洗われました。高齢化で会員は減少し寂しくはなりましたが、携わっていただいた皆様に感謝しています」と笑顔で話しました。



記念誌を高橋会長へ手渡すさくらの会村上副会長（左）